

◎旧朝香宮邸の歴史を訪ねて

連載 ◆ 第13回 / パリ滞在時「受領証綴」調査報告(その1)

Residence of Prince Asaka 1933—

庭園美術館には、朝香宮両殿下がパリに1922年から25年まで滞在された折¹⁾の領収書の数々が、39冊もの「受領証綴」として保管されています。それらの貴重な記録からは、鳩彦殿下と允子妃殿下お二人のパリでの暮らしぶりを詳細に読み取る事ができます²⁾。

受領証の日付は、1922(大正11)年11月、伏見丸でフランスへ向かうところから始まっています。殿下の一行³⁾は、翌月パリのホテル・マジスティックに投宿し、翌年の3月に宿泊料を精算。マラコフ88番地のアパートマンがパリでの拠点として新たに選ばれました⁴⁾。「マラコフ御殿」と呼ばれたアパートマンには、花屋の「モン・オレヴ(Mon Orève)」から、毎週のようにバラやカーネーション、グラジオラス、百合など季節を彩る花々が届けられました。

月に一度は日本人会の料理部から、丼物や煮物、刺身など日本料理の仕出しを取られていたことも受領証から判明しました。市内のレストランもご利用になり、「ピカデリー(Piccadilly)」での食事の際には、妃殿下とお供の三人で、ポタージュ、鱒、若鶏、桃などを召し上がっています⁵⁾。

スポーツがお好きだった鳩彦殿下は、ゴルフやテニスのクラブにも入会されていました。1924年

5月には妃殿下とご一緒にゴルフをプレイされており、怪我の順調な回復ぶりが伺えます。また殿下はドイツから「ピコレット(Piccolette)」など複数のカメラ機材を購入され、多数の写真の現像と焼き増しを発注していました。妃殿下はしばしば観劇を堪能されたようで、チケットの他にプロダ



「イスパノ・スイザ(Hispano Suiza 32C.H.)」の前でポーズをとる両殿下 鶴島報效会蔵
1925年7月29日「自動車第二回払い込み」というメモ入りの36,300フランの小切手が現存している。車種を特定するに際しては高木道雄氏(モーター・ジャーナリスト)の助言を得た。

ラムや脚本の購入メモまで残されています。ご趣味であった絵画は、ブランショ(Blanchot)⁶⁾から水彩画のレッスンを受けられていました⁶⁾。

渡欧目的であった軍事研究のための、戦地視察旅行の記録も見ることができます⁷⁾。1924年6月には、オリンピック日本選手団を選手村で激励し、果物を下賜されており、これに先立つ4月には選手団に対して5,000フラン⁸⁾もの寄付をなされています。日本への電報も散見され、皇族方の慶弔や事務連絡に際し、事細かに打電されていたことがわかります。1924年11月には、東京高輪の朝香宮邸に向けて、本や洋服、小児用自転車、ヴァイオリンなどが送られていて、遠く離れて暮らすお子様方への両殿下の想いが偲べれます。

1925年9月、家政婦への給料の支払いが、マラコフ邸滞在最後の受領証となりました⁹⁾。

(青木淳子/東横学園女子短期大学非常勤講師) ◆

*2002年より実施された資料調査に基づき、3回にわたって青木淳子氏による調査報告を連載いたします。

*1. 朝香宮鳩彦殿下は軍事研究の目的により1922年に渡欧されたが、翌年4月、北白川宮夫妻とのドライブの途中、交通事故により大怪我を負われ、看病のため允子妃殿下が6月に渡欧された。

*2. 受領証の数は約3,000枚にもなる。これらを整理する過程において、朝倉三枝氏(お茶の水女子大学大学院博士課程)の助力を得た。

*3. 殿下の随員は、御付武官藤岡萬蔵少佐(後に中佐)、朝香宮事務嘱託稲葉三郎、事故後に堀久吉、また1923年9月から相馬孟胤子爵が御用掛(係)として渡欧した。妃殿下には渡欧時に宮御用掛、栗田直八郎朝香宮監督、山口健一郎宮内属朝香宮付が随行し、1923年7月、3人の帰国後は杉岡侍女がそのままお仕えした。

*4. ガスの「手続き書」などからの確認による。受領証の宛名は、「コント・アサ(Comte Asa/朝伯爵)」となっており、皇族として警備などの面で、相手国に過剰な負担を掛けないように配慮されたことが伺える。マラコフ通りの付近は、現在レイモン・ボワンカレ通りと改称されている。

*5. イヴァン＝レオン＝アレクサンデル・ブランショ(Ivan-Léon-Alexandre Blanchot, 1868-1947)。1933(昭和8)年に朝香宮邸が白金に新築された折、大広間の大理石レリーフ《戯れた子どもたち》を制作した。

*6. 他にもダンスや語学のレッスン記録が残されている。

*7. 両殿下はパリ滞在中、戦地視察や英国への小旅行のほかに、ニュース・カップ・マルタンへの転地療養(1924年2月28日から3月18日)、中欧旅行(同年7月22日から8月31日)、南仏・中仏・スイス旅行(1925年1月28日から2月12日)、オランダ・ベルギー旅行(同年4月25日から30日)、ライン下り(同年9月20日から24日)を行っている。

*8. 当時の1円が約7フランに相当する。ちなみに大卒男子の初任給は約70円であった。第8回オリンピック・パリ大会は1924年7月5日に開幕した。

*9. 新聞記事によると両殿下の帰朝経路は次の通り。1925年10月28日パリ発、11月4日ニューヨーク着、11月24日サンフランシスコ発、ホノルル経由で12月11日横浜着。



右:レストラン「トゥールダルジャン(La Tour D'Argent)」の受領証(部分)
1923年11月11日 妃殿下、御供藤岡、稲葉、杉岡という書き込みがある。